

「こおりやまの米」通信

平成25年12月20日



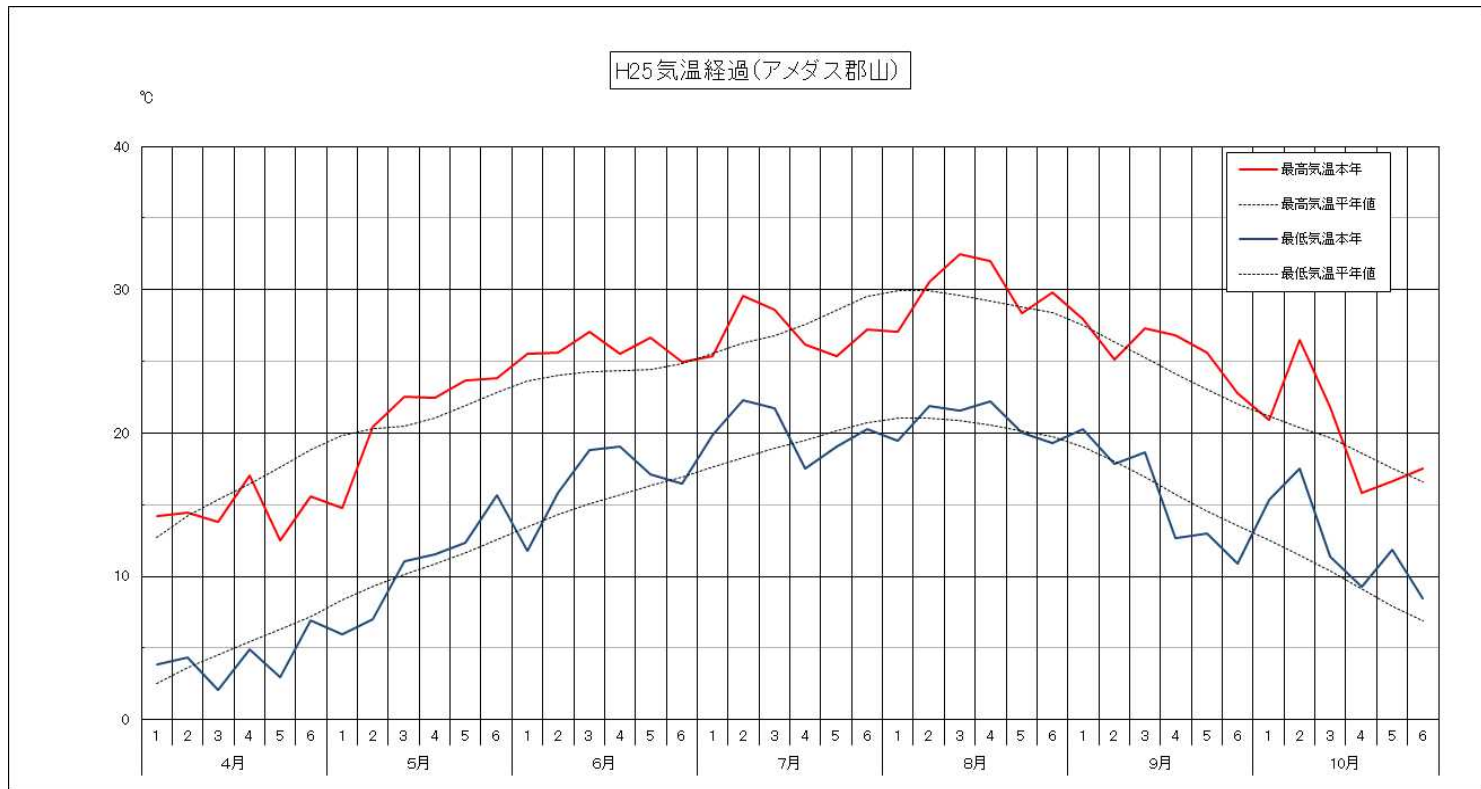
郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

編集：郡山市
JA 郡山市 (TEL. 921-0724)
NOSAI 郡山田村 (TEL. 933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

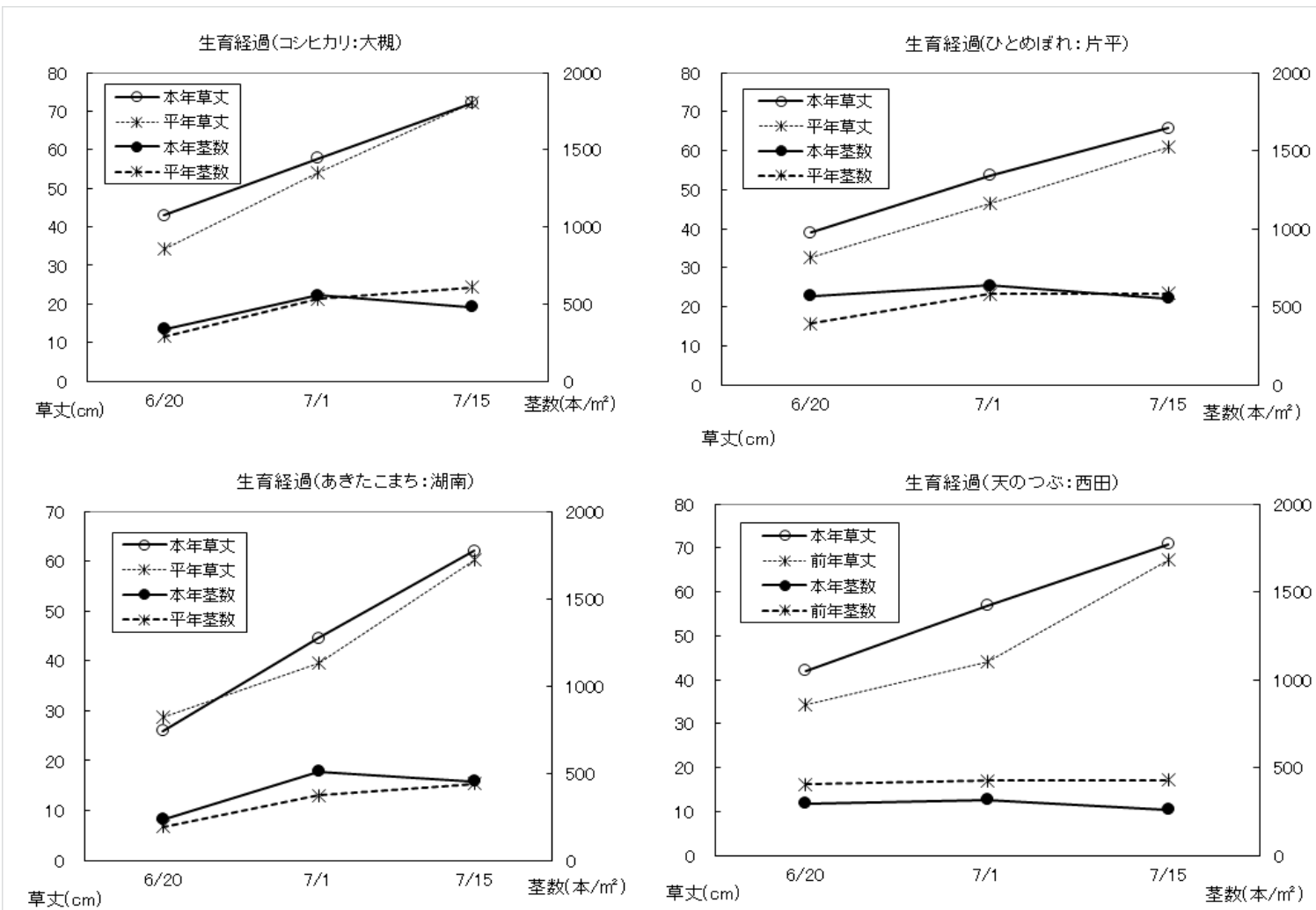
発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 TEL924-3761)

Vol.9 最終号 (生育調査ほ結果)

1 気象経過



2 生育概況



- (1) 播種～育苗期：播種盛期は、4月16日で平年並でした。4月下旬～5月上旬は気温が低かったため苗の草丈は短くなりました。5月に入り、もみ枯細菌病の発生が平年より多く見られました。
- (2) 田植期：田植盛期は、5月15日で平年より1日遅れました。活着は概ね良好でしたが、周期的に風の強い日があり、一部で植え傷みが発生しました。天水田では、少雨により田植えの遅れや、一部で田植え不能（東部を中心に7.93ha）になりました。
- (3) 分けつ期：5月中旬以降、気温はやや高く経過し、平坦部は平年に比べ草丈が長く、茎数が多くなりました。湖南地区は田植えが遅いこともあり平年に比べ草丈がやや短く、茎数が多くなりました。葉色は平年並からやや淡く、生育は、平年に比べ3～4日程度早まりました。
- (4) 幼穂形成期：7月前半までの気温は平年に比べ高めとなりました。7月16日の生育調査の結果では、草丈がやや長く、茎数がほ場によりばらつきが大きい状況でした。葉色は平年並からやや淡くなりました。幼穂形成期は、平年に比べ5日程度早まりました。7月19～20日に一時的に低温になりましたが、障害不稔の発生はありませんでした。
- (5) 出穂期：7月4日半以降、気温があまり上がらず、日照時間の少ない状態が梅雨明け（8月3日）まで続いたため、管内全体の出穂盛期は、8月10日で平年より1日早まっただけでした。品種別に出穂期は、平坦部のコシヒカリが8月11日、ひとめぼれが8月5日で平年より1日早く、湖南地区のあきたこまちが8月3日で平年より5日早くなりました。
- (6) 登熟期：出穂期以降の気温は平年よりやや高めで日照が多く経過し、登熟は良好でした。平坦部は、平年に比べ稈長がやや短く、穂長が平年並、穂数が平年並でした。湖南地区は、平年に比べ稈長が長く、穂長がやや短く、穂数が多くなりました。
- (7) 刈取期：全体の刈取盛期は、登熟は早まったものの台風や降雨の影響を受け、平年より2日早い10月9日となりました。
- (8) 作柄：東北農政局福島地域センターが公表した水稻の作柄は、全もみ数が「やや多い」となり、出穂期以降は概ね高温・多照で経過し、登熟は「平年並」であることから、中通りの作況指数は103となりました。
- (9) 品質：JA郡山市の検査結果では、11月末現在の水稻玄米1等米比率は、92.4%（前年同期94.4%）でした。2等以下に格付けされた主な理由は、8割が着色粒（カメムシ類）となっています。カメムシ類による着色粒の発生は、西部の山沿いや北東部の河川沿いの中生品種（ひとめぼれ、天のつぶ）で目立っています。

3 生育調査ほ収量調査結果

- (1) 初期生育の遅れのため、わら重は平年に比べ減少しましたが、精籾重は出穂期以降の好天により改善したと考えられます。
- (2) コシヒカリは、登熟歩合の向上により精玄米重が平年より多くなり、登熟歩合の向上は出穂期以降の天候に恵まれたためと考えられます。
- (3) ひとめぼれの㎡当り籾数は、平年より多くなったものの、登熟歩合及び千粒重がやや低下したため、平年より少ない精玄米重になったと考えられます。
- (4) あきたこまちは登熟歩合が向上したものの、7月後半の低温の影響で1穂籾数が減少し、㎡当りの籾数が少なかったため、平年よりやや少ない精玄米重になったと考えられます。

場所	町	地区	品種	総重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	精籾重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	籾数		千粒重 (g)	登熟歩合 (%)
									粒/穂	100粒/㎡		
大槻		中ノ平	コシヒカリ	1640	789	820	676	654	78	302	22.2	92
			直近5カ年	1740	899	802	637	602	80	347	22.0	77
片平		谷地	ひとめぼれ	1453	658	761	624	615	64	334	22.6	88
			直近5カ年	1491	681	785	644	639	57	291	23.0	91
湖南		赤津	あきたこまち	1719	736	950	786	775	73	318	22.2	94
			直近5カ年	1696	714	943	742	784	83	350	21.8	88

*精玄米重はふるい目幅1.80mm以上で選別された玄米の重量

4 天のつぶ調査ほ生育および収量調査結果

- (1) 地区により収量にばらつきが生じました。収量が低かったほ場の要因としては、疎植による穂数不足が考えられます。
- (2) 収量が高かったほ場では、収量は前年に比べ大幅に増加しました。要因としては生育量（総重）が大きく、㎡当りの籾数が多かったためと考えられます。収量の確保のためには生育初期から幼穂形成期にかけての生育が重要と考えられます。
- (3) 天のつぶを栽培するにあたっては、県栽培暦を遵守した21株/㎡の植栽密度と適正施肥による生育量（総重）の確保が重要と考えられます。

場所	町	地区	品種	総重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	精籾重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	籾数		千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	栽植密度 (株/㎡)
									粒/穂	100粒/㎡			
喜久田		前田沢	天のつぶ	1330	606	699	580	575	72	293	22.8	95	16.3
三穂田		野田	天のつぶ	1716	794	879	725	716	74	333	22.5	84	19.3
西田		丹伊田	天のつぶ	1300	586	683	568	564	90	239	22.6	91	15.7
日和田		北野	天のつぶ	1821	823	955	781	763	76	326	22.0	90	19.5

*精玄米重はふるい目幅1.80mm以上で選別された玄米の重量